

はんだ山の風



薬剤部 患者さんや社会の皆さんにとって良い医療(薬物治療)を実現します

※撮影時のみマスクを外しています

Contents

- P.2 **病院長特別補佐就任のご挨拶** 病院長特別補佐(経営戦略担当) 内科学第三講座 教授 前川 裕一郎
- P.3 **新任准教授の紹介** 小児科学講座 准教授 石川 貴充
薬剤部 副薬剤部長 特任准教授 見野 靖晃
- P.4 **シリーズ最新医療 Vol.35「ロボット支援下大腸がん手術の現状」** 外科学第一講座 診療助教 鳥居 翔
- P.5 **シリーズ最新医療 Vol.36「キズ(皮膚欠損や皮膚潰瘍)に対する再生医療
— 多血小板血漿(PRP)療法 —** 形成外科 特任教授 中川 雅裕
- P.6 **病気ここが知りたい「呼吸器のアレルギー性疾患 ～気管支喘息の病態と治療～」** 内科学第二講座 助教 藤澤 朋幸
- P.7 **栄養部「腎臓病の食事療法について」** 栄養部 主任管理栄養士 腎臓病病態栄養専門管理栄養士 増田 えり子
- P.8 **院内のご案内「周産母子センターのリニューアルについて」** 周産母子センター センター長 産婦人科学講座 教授 伊東 宏晃
周産母子センター 副センター長 地域周産期医療学講座 特任教授 飯嶋 重雄
周産母子センター 産婦人科学講座 助教 幸村 友季子
- P.10 **腫瘍センターだより「先端医療センターでの新しい放射線治療」** 放射線腫瘍学講座 教授 中村 和正
- P.11 **夏季学童保育の報告について** 女性医師支援センター センター長 病院教授 山内 克哉
運営委員 講師 藤澤 泰子
- P.12 **浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第23・24・25回)** 医療福祉支援センター地域連携室
- P.12 **「よくわかる! 浜松医科大学医学部附属病院 最新医療のいま」を出版しました。**



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
(一般病院3)

病院紹介動画は
こちらから



病院長特別補佐(経営戦略担当) 内科学第三講座 教授 前川 裕一郎



令和4年(2022年)7月1日付で病院長特別補佐(経営戦略担当)を拝命しました内科学第三講座(循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)の前川裕一郎と申します。本学に赴任してから6年目を迎えております。附属病院広報誌「はんだ山の風」では、赴任時にご挨拶として自己紹介および今後の抱負などを書く機会をいただいた記憶がありますが、今回は病院長特別補佐としてご挨拶させていただきます。

隔週朝に開催される病院執行部会に病院長特別補佐として参加させていただいております。執行部会では、病院が今すぐに対応しなければならない事、現在対応中の事、将来行わなければならない事などを議論しています。病院経営の面で、本院職員の皆さんの最も身近な情報では、病床稼働率となるかと思えます。病院経営支援課病院経営管理係から助教以上の先生方には毎日メールで配信されているだけでなく、電子カルテのトップ画面にも表示されており、多くの職員が日項目にしております。本院は、高度先進医療を提供する静

岡県で唯一の大学病院であり、そして特定機能病院の一つでもある事から、他の病院では診断ができなかつ

た、あるいは治療できない患者さんを多数紹介いただいています。紹介患者さんや患者さんを紹介してくださる先生方のご要望に応えるためには効率的な病床管理が求められており、病院経営管理係では、データ面から最適な在院日数を判断して退院日を現場に提案していくことにより、病院としてより良い医療の実現を目指しています。また、病床稼働率を含む病院経営に関するさまざまな情報を分かりやすく提供する事を目的とした病院経営ニュースを毎月配信しています。

松山 幸弘病院長、堀田 喜裕副病院長、須田 隆文副病院長、中島 芳樹副病院長、竹内 裕也副病院長、佐々木 菜名代副病院長のご指導のもと、微力ながら病院経営に貢献していきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



更なる小児医療の発展を目指して

小児科学講座 准教授 石川 貴充



令和4年（2022年）6月1日付で小児科学講座准教授を拝命いたしました石川貴充（いしかわたくみち）と申します。私は浜松市で生まれ育ち、平成9年（1997年）に旭川医科大学医学部卒業後、浜松医大小児科に入局しました。1年間の大学病院研修の後、当時まだ当小児科の関連病院ではなかった藤枝市立総合病院小児科に浜松医大小児科としては初の研修医として赴任いたしました。同院は当時東京大学から小児科医が派遣されており、様々な先生から東大流の診療方針を学びました。平成11年（1999年）から榛原総合病院で小児科一般診療の研鑽を積んだ後、平成14年（2002年）から静岡県立こども病院循環器科でサブスペシャリティ研修を行いました。全国的にも優れた診療成績を持つ同院で小児循環器の専門研修はもちろん、医

師としての素養を徹底的に鍛えていただきました。平成16年（2004年）に帰局した後は、平成21年（2009年）に本学附属病院周産母子センター助教、平成28年（2016年）に同講師を拝命し診療・教育・医局運営に取り組んでまいりました。

近年の小児医療は従来の小児科疾患(Pediatrics)だけでなく、いわゆる小児保健(Child Health)も重要になってきており、これには現在の研究テーマの一つでもある「早産低出生体重児と将来の心血管系疾患との関連」も含まれます。こうした問題の予防、診断、治療にも積極的に関わりたいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

薬剤部特任准教授に就任して

薬剤部 副薬剤部長 特任准教授 みの やす あき 見野 靖晃



令和3年（2021年）10月1日付で薬剤部特任准教授を拝命いたしました。私の名字である見野は浜松市をルーツとしており、私も浜松市（旧可美村）の出身です。私は平成17年（2005年）に静岡県立大学を卒業後、同大学院に進学し、平成22年（2010年）に本院に就職しています。大学院在籍中は特別研究学生として本院にお世話になりました。本院薬剤部に就職後は治験薬管理業務を担当し、平成26年（2014年）に薬剤主任へ昇任し、医薬品情報管理室長となりました。医薬品情報管理室では後発医薬品使用体制加算の算定や周辺薬局とのプロトコルに基づく薬物治療管理の導入などに取り組みしました。平成30年（2018年）から令和3

年（2021年）半ばまでの3年間は本院初の専従薬剤師GRMとして病院内を回り、医療安全管理に努めました。薬剤部内では誤調剤・誤調製時の対応手順を整備するとともに、調剤時のバーコード認証システムの導入を進めました。令和元年（2019年）からは試験研究室室長を兼務し、研究・教育活動のウェイトを増やし現在に至ります。特任准教授就任後も調剤業務や病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務などの臨床業務にも継続して取り組んでいます。今後もこれまでと同様に皆様のご支援とご指導を仰ぎたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。



はじめまして、一般外科（内視鏡外科）所属の鳥居翔と申します。私の専門は消化器外科、特に大腸疾患です。令和2年（2020年）11月より、下部消化管外科の手術に参加する形でロボット支援下直腸切除術を導入いたしました。

直腸は骨盤に囲まれた狭い場所にあり、周囲には膀胱、前立腺、子宮などの重要な臓器と、排尿や性功能をつかさどる自律神経が集まっているため、直腸がんに対する手術は難しい手術と言えます。これまでに腹腔鏡手術が広く普及することで、手術創は小さくなり術後の痛みが減少し、早期退院・社会復帰を実現できるようになりました。しかし、直腸切除術においては狭いスペースの中で、直線的な鉗子の可動性では手術操作に制限があります。

手術支援ロボットは、鮮明な3Dハイビジョン画像に加え、先端が人間の指や手の動きを模倣する高い自由度を持った関節を有し、さらに手ブレ防止機能により安定して操作することができます。その有効性について、海外の臨床試験でロボット支援下直腸切除術は従来の腹腔鏡手術と比較して自律神経損傷が少なく、排尿障害と男性の性功能

障害を低減できることが明らかになりました。さらに直腸がんの根治性が向上し、局所再発を減らす可能性があると考えられています。

このようにロボット支援下手術は、直腸がん手術に求められる根治性と機能温存の両立を目指した手術法です。

ロボット支援下直腸切除術は、国内では平成30年（2018年）4月に保険収載され近年急速に普及しています。その治療成績は、従来の腹腔鏡手術と比較して手術時間は長いものの、出血量は少なく、退院までの期間が短くなります。本院でこれまでにロボット支援下手術を受けられた患者さんは、術後平均8日で退院されています。今後も多くの患者さんに安心して手術を受けていただけるように努めていきます。

また令和4年（2022年）4月からロボット支援下結腸切除術が保険収載され、直腸以外の大腸がんに対してもロボット手術が行われるようになりました。その有効性が示されれば、今後さらに普及していくでしょう。将来的には機械の小型化、人工知能（AI）の導入などによって、より多くの患者さんに精度の高い手術を提供できるようになると期待されます。

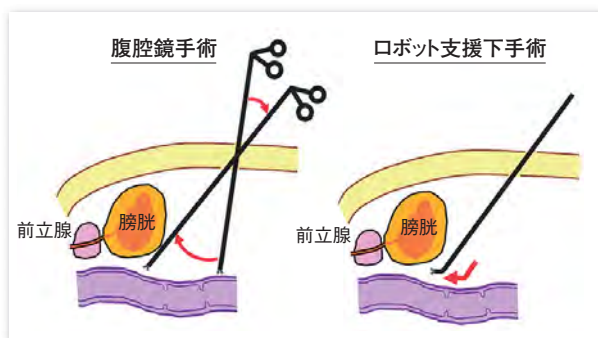


図1 直線的な鉗子の可動性では制限があり、手術支援ロボットは自由度の高い関節を有する。



図2 本院の手術支援ロボット

キズ(皮膚欠損や皮膚潰瘍)に対する再生医療 — 多血小板血漿(PRP)療法 —

形成外科 特任教授 中川 雅裕

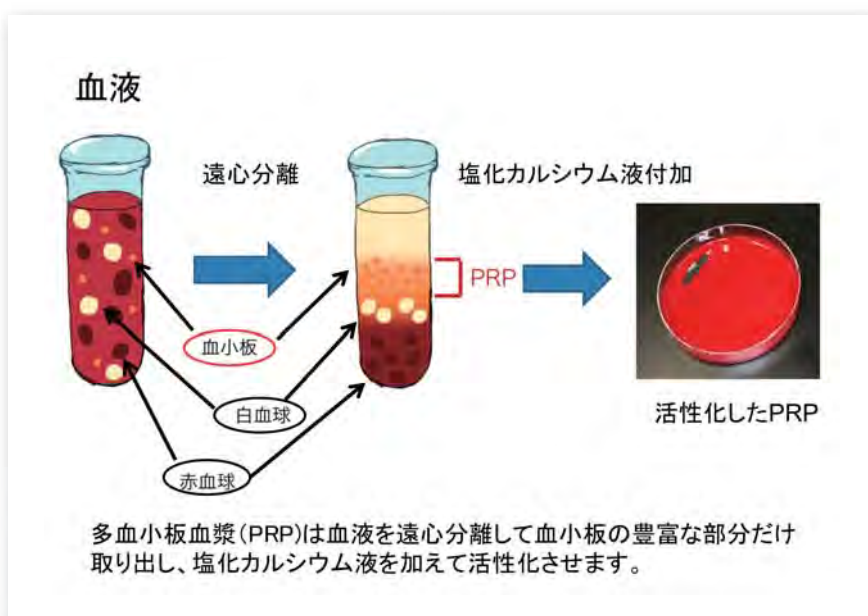


最近、さまざまな病気やけがの治療で再生医療が話題となっています。再生医療とは、患者さん自身または他者から特定の細胞を採取して、その細胞を加工し移植することで、失われた組織や臓器を再生させる治療法です。この再生医療は、まだ臨床研究中であったり、保険診療とならない自費での治療がほとんどですが、なかなか治らないキズ(皮膚欠損や皮膚潰瘍)に対する多血小板血漿療法は保険診療となっています。

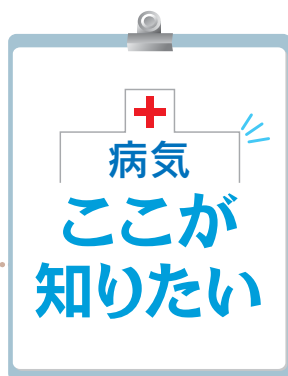
事故や病気で皮膚欠損や皮膚潰瘍といわれるキズができることがあります。糖尿病や静脈うっ滞、膠原病、リウマチなどの病気や免疫抑制剤やステロイド剤などの使用があると、従来の治療ではなかなか治らないことがあり、28日以上キズが治らない場合はこの多血小板血漿療法が適応となります。多血小板血漿はPRPともいわれ、血液に含まれる血小板を用いた治療法です。血液中には赤血球、白血球、血小板があります。そのうち、血小板の一番大きな役割は、出血を起こした時に血液を凝固させ、止血するものですが、それ以外にもキズを治すためのさまざまな物質をつくる役割もあります。この血小板の役割を高めて治療に用いるのが多血小板血漿療法です。患者さん自身から採取した20~40mlの血液の中から多くの血小板を取り出すために遠心分離し、血液を

赤血球、白血球、血小板、血漿に分けます。そのなかの血小板成分の多い部分を取りだし、これに塩化カルシウム液を加え、血小板成分をゼリー状にして活性化させます。そのゼリー状にした血小板成分をキズの上に貼り付けることで、キズを治す力を助けます。1回だけでキズが治る場合もありますが、通常は2~3回この療法を行います。

このキズに対する多血小板血漿療法は国内でも行っている病院が少ないのが現状です。本院形成外科では、この多血小板血漿療法以外にも手術治療や細胞増殖因子を使った治療、臨床研究中的の治療などの数多くの治療を行っています。また、多血小板血漿療法に関して保険診療になるには厚生労働省が定めた細かな適応基準がありますので、どの治療法がより適しているか、かかりつけ医を通して本院形成外科に一度ご相談ください。



PRPのつくり方



呼吸器のアレルギー性疾患 ～気管支喘息の病態と治療～

内科学第二講座 助教 藤澤 朋幸



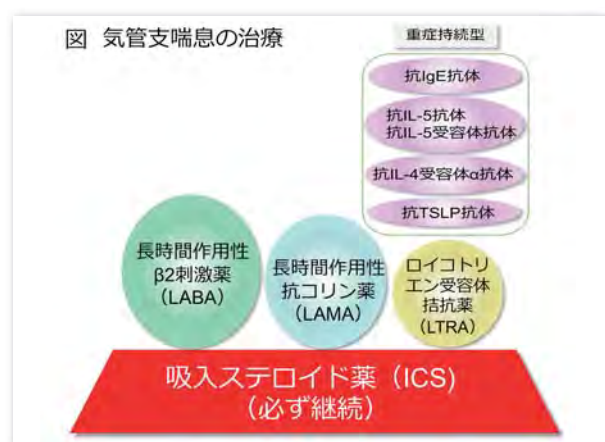
肺は呼吸により空気中の粉塵や病原体に常にさらされているため、感染症、アレルギー性疾患、肺がんなど様々な病気を起こします。気管支喘息は、呼吸器のアレルギー性疾患の中で最も有病率が高く、現在250名程度の喘息患者さんが当科に通院されています。吸入ステロイド薬（ICS）を主体に、重症度にあわせて長時間作用性 β 2刺激薬（LABA）、長時間作用性抗コリン薬（LAMA）、ロイコトリエン受容体拮抗薬（LTRA）による治療を行っています。重症例は、生物学的製剤を用いた専門的治療も実施しています。

気管支喘息の病態

気管支喘息は、空気の通り道である気道（気管や気管支）に慢性的な炎症が起き、少しの刺激に対して気道が過敏に反応し（気道過敏性の亢進）、気道が狭くなってしまう（気道狭窄）疾患です。長引く咳、気道狭窄に伴うヒューヒュー・ゼーゼーする症状（喘鳴）、息切れなどを主症状とし、悪化すると喘息発作を来して呼吸困難を引き起こします。気管支喘息の約60%は乳幼児期に発症し、多くは思春期の頃に一旦がよくなりますが、30%程度は大人になっても続きます。大人になってから喘息を発症することも少なくありません。気管支喘息は、症状を誘発するアレルゲン（原因物質）が明らかなタイプ（アトピー型）と、はっきりしないタイプ（非アトピー型）に大別されます。最近の研究により、喘息の基礎病態は、自然免疫・獲得免疫の両者による“2型免疫応答”を主体とする慢性の気道炎症であることが明らかとなりました。喘息の気道には、ヘルパーT2（Th2）細胞、2型自然リンパ球（ILC2）、好酸球、マスト細胞などが集積し、Th2やILC2はIL-4、IL-5、IL-13などを産生して2型炎症（アレルギー性炎症）を引き起こします。また、気道上皮の障害により遊離したTSLPやIL-33は、ILC2を活性化します。

治療

喘息治療の目標は、「喘息症状がなく、健康な人と変わらない生活を送ること」です。ICSを用いて、喘息の本態である「慢性の気道炎症」を制御することが極めて重要です。重症度に応じて、ICSに他の薬剤を併用して治療します（図）。



●ICS（吸入ステロイド薬）

気道炎症を抑制する最も重要な治療薬です。全身への副作用はほとんどありません。症状が改善してもICSを継続して、気道炎症を再燃させないことが重要です。

●気管支拡張薬：吸入LABA、吸入LAMA

LABAやLAMAは気管支拡張作用をもち、ICSと併用することで咳や息切れの改善に優れた効果を発揮します。現在、ICS/LABA配合剤やICS/LABA/LAMA配合剤（トリプル製剤）が使用可能です。

●LTRA（ロイコトリエン受容体拮抗薬）

アレルギー性鼻炎にも保険適用がある内服薬で、鼻炎合併例等にしばしば用いられます。

●生物学的製剤（抗IgE抗体、抗IL-5抗体、抗IL-5受容体抗体、抗IL-4受容体 α 抗体、抗TSLP抗体）

重症持続型喘息には、上述の薬剤に加えて2型免疫応答を特異的に抑える生物学的製剤（皮下注射）を用います。より専門的な治療法です。



腎臓病の食事療法について

栄養部 主任管理栄養士

腎臓病病態栄養専門管理栄養士 増田 えり子



腎臓病の食事療法は患者さんの病期（ステージ）や状態により様々です。慢性腎臓病に対する食事療法基準に準じ、エネルギーやたんぱく量などを調整した病院食を提供しています。

腎臓病はステージにより食事の内容は異なります。軽度腎機能が低下した場合、食事で気をつけたい内容は塩分を減らす事です。塩分制限が必要な場合の病院食では1日の塩分量を6.0g未満にした食事を提供しています。200kcal刻みで1,200～2,400kcalのエネルギー設定をしています。料理ごとに味にメリハリをつけたり、ダシを効かせた料理、酸味を使った料理など薄味でも美味しく食べることができるよう工夫しています。

中等度腎機能が低下すると、たんぱく質の制限や場合によりカリウムの調整も必要になります。たんぱく質は25～70g、エネルギーは1,200～2,600kcalの設定で28種類の組み合わせから選ぶことができます。たんぱく量を減らすには肉や魚・卵・大豆製品・乳製品などの量を減らす必要があります。主菜を減らすばかりでは貧相になりますので主食のたんぱく量を主菜にまわせるよう低たんぱくご飯を使用する場合があります。同時にエネルギーの確保も必要になるのでエネルギー補給用のゼリーやクッキーなどを使用する場合があります。

末期には腎代替療法が必要になります。血液透析と腹膜透析に対応した食事も提供しています。塩分をはじめ、カリウムやリン、水分量をコントロールした食事となります。また、腎移植時にも移植後に配慮した食事を提供しています。

美味しく食べられることはもとより、入院中に味つけや目安量を知ってもらい、退院してからの食事の参考となるよう日々努めています。

1,800kcalの食事



常菜食 一般的な制限のない食事



たんぱくコントロール食(たんぱく質40g) 主食は低たんぱくご飯を使用



透析食(たんぱく質60g、カリウム2000mg以下、リン900mg以下)

院内のご案内「周産母子センターのリニューアルについて」



周産母子センター
センター長
産婦人科学講座
教授 伊東 宏晃



周産母子センター
副センター長
地域周産期医療学講座
特任教授 飯嶋 重雄



周産母子センター
産婦人科学講座
助教 幸村 友季子

周産母子センター 副センター長 地域周産期医療学講座 特任教授 飯嶋 重雄

新生児特定集中治療室（NICU）と新生児治療回復室（GCU）は先端医療センター4階に移転し、令和4年（2022年）1月4日より稼働を開始しています。病床面積はNICUが約2.5倍、GCUが約3.5倍に拡張し、機能性とプライバシーを重視した広いスペースで診療やケアが行えるようになりました。また、NICU・GCUの移転に引き続いて母子産科病棟の改修工事が始まり、同年11月1日に稼働開始となりました。これと同時にGCUが6床から12床に増床になり、9床のNICUと併せて21人の新生児の入院が可能になりました。これまで本院NICU・GCUは慢性的な満床状態で、病床確保のため退院を早める、退院が間近な新生児を小児科病棟に移動する、母体搬送・新生児搬送の受け入れを断るなど、心苦しい状況が多々ありました。増床によってこのような状況が解消されるものと期待しています。GCUには、家族が周囲に気兼ねすることなく赤ちゃんと一緒に過ごせる家族室を、そして複数の赤ちゃんが使用可能なよ

うに2部屋新設しました。退院後の生活に慣れる目的で24時間お母さんが赤ちゃんと一緒に過ごしてもらう場合、以前は病床不足から小児科病棟や母子産科病棟に転棟せざるを得ませんでした。増床後は、家族室を活用した家族ぐるみのケアが行えるようになります。さらに、一度医療機関を退院して自宅に戻った新生児の入院は、病床不足と感染対策の観点からお断りしていましたが病床不足が解消され、広い診療スペースで十分な感染対策が行えることから、新生児期に病的状況となった赤ちゃんについては、一度自宅に戻っていても受け入れるように体制を変更しました。



新しくなったNICU



は ま
HAMA
か ご
KAGO



母児ともに安心して管理を行えるMFICUにて

周産母子センター 産婦人科学講座 助教 幸村 友季子

令和4年（2022年）11月に、本院周産母子センター（産科とNICU）がリニューアルし、愛称は公募により「はまかご」になりました。浜松医科大学で生まれた赤ちゃんが、優しくゆりかごに包まれ、加護を受けて健やかに育ちますようにとの願いを込めています。

①周産母子センター「はまかご」

産科部門について

産科エリアでは、①MFICU（母体・胎児集中治療室）、②分娩エリア（陣痛室・分娩室）が増設となりました。MFICUでは、重症妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、前置胎盤などの患者さんに対し、お母さんと赤ちゃん両方の状態把握や異常時の早期発見ができるような設備を整えています。分娩エリア（Bloom Birthエリア）は、陣痛室と分娩室が増え、全室で無痛分娩に対応できるようになりました。

②当院での産科診療の特徴

基礎疾患を持つ妊婦さんの診療、無痛分娩、多職種と連携した産科の救急疾患の対応などを強めています。また、リスクが少ないと思われる妊婦

さんの妊娠管理や分娩も積極的に行っています。

もともと心臓や腎臓、こころなどに病気を持っている方や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、赤ちゃんが通常よりも早く生まれる早産や、赤ちゃんに病気が見つかる方もいらっしゃいます。より安全に出産できるよう、周産期に関わる多くの診療科と連携し、週一回高リスクの妊婦さんについての検討会にて情報共有を行っています。また本院では、近年ニーズが高まってきている無痛分娩を提供しています。令和3年度（2021年度）は約12%の方が無痛分娩で出産されました。経験豊富な麻酔科医、産婦人科医、助産師らが連携し、より安心して効果的な無痛分娩の提供に努めています。

③助産師による妊娠中や育児産褥指導

妊娠中や産後は授乳や赤ちゃんのこと、家族のサポートや経済的なことなど様々な不安を抱えることが多く、安心して妊娠、分娩、育児ができるようにサポート体制を整えています。また、助産実践能力が一定水準に達していると認められたアドバンス助産師による乳房ケアや育児相談外来を行っています。令和4年度（2022年度）中に産後ケア事業も開始する予定です。

腫瘍センター だより

先端医療センターでの新しい放射線治療

放射線腫瘍学講座 教授 中村 和正



放射線治療部門では、リニアック（外部照射装置）、治療計画CT、治療計画装置、RALS装置（密封小線源治療装置）といった医療機器を使用します。先端医療センターの開設に伴い、リニアック2台のうち1台のみを従来の治療部門に残し、その他すべての機器が先端医療センターに移設、更新され、最新のシステムが導入されました。

新しく導入された最新鋭のリニアック（写真）の特長は、照射精度が非常に向上したことです。患者さんの照射位置の補正は、わずかな傾きも補正できる六軸補正へと変更になり、定位放射線治療、強度変調放射線治療（IMRT）などの高精度放射線治療をより正確に行うことができるようになりました。定位放射線治療は、いわゆるピンポイント照射のことで、脳転移、肺腫瘍、肝がんなどの小さい病巣に対して多方向から正確に放射線を集中し、副作用を抑えて治療することができます。脳転移については、ハイパーアークと呼ばれる専用のシステムが導入され、複数の転移を同時に、かつ短時間で治療することができるようになりました。強度変調放射線治療では、リニアックの照射口に取り付けられた絞りをコンピュータ制御で動かして放射線の強さを変えることにより、病巣の形状に合わせて放射線を当てることができます。脳腫瘍、頭頸部がん、前立腺がん、子宮がんなどに威力を発揮します。

病巣への正確な照射には、病巣の位置情報を取得して治療する、画像誘導放射線治療が必須となりますが、通常はX線装置により二次元画像や三次元画像を取得して位置のずれを補正しま

す。新しいリニアックには、Surface-guided radiotherapyと呼ばれる位置精度を向上させる装置が設置

される予定で、目には見えない光学的なパターンを投影して体表面の位置情報を取得し、治療前・中の位置情報、体動や呼吸での胸郭の動きなどを正確にモニタできます。

RALS装置は、主に子宮がんの腔内照射に用いられます。静岡県西部地区でこの治療ができる病院は限られており、本院では多くの患者さんの治療を行っています。新しいRALS装置には、CTが同室設置されており、体内での線源配置を今よりも簡便に確認できるようになり（画像誘導小線源治療）、病巣や腸管などへの放射線の量を正確に計算することで、治療成績の向上、副作用の低減につながります。

以上のように、先端医療センターでは、今まで以上に体への負担の少ない放射線治療が可能となりました。今後ともより良い治療を提供できますよう、努力してまいりたいと思います。



リニアック（外部照射装置）

夏季学童保育の報告について

女性医師支援センター センター長 病院教授 山内 克哉

運営委員 講師 藤澤 泰子

令和4年（2022年）7月25日から8月26日までのおよそ1ヶ月にわたり夏期学童保育（アカデミックサマースクール）を初めて開設しました。

開設に至る背景として、学童保育に関する職員アンケート調査で長期休暇時におけるニーズが高いと分かったこと、また浜松市は慢性的に学童保育が不足しており、低学年でも公立の学童保育に入会しにくい状況がありました。

そこで当センターのメンバーが中心となり、医大ならではの長特を活かせるような学童保育を企画し、開設いたしました（委託運営：認定NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ）。

子供向けの科学実験、野菜からのDNA抽出、顕微鏡を作ろう、救急講座、感染対策講座、シミュレーション教室、ダンス、楽器体験、人形劇、助産師による「いのちの話」、ストーリーテリングと充実した内容で開催しました。また外部講師による英語レッスン（全8回）も行いました。低学年向け、高学年向けと年齢に配慮したイベントもあり、全学年の子供たちが楽しく参加し、利用者アンケートでは参加者だけでなく父兄からも好評を得ることができました。

特筆すべきこととして、受け入れる児童を職員



女性医師支援センタースタッフ

家族に限定せず、一般枠を設置して、浜松市在住のお子さんを一定割合受け入れたことです。このことは、地域の皆さんに医大を身近に感じていただくことの一助となったと思います。

一時、新型コロナウイルス感染症の影響で2日間閉室をしましたが、無事終了できました。ご協力いただいた講座・診療科・サークルや保育士の皆さん、そして運営にご理解いただいた保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



感染対策講座



楽器体験



救急講座

浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内（医療従事者向け）

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。（12月の開催はありません）

開催回	開催日時	講 師	申込締切
第23回	1月25日(水) 19時30分～20時30分	 麻酔・蘇生学講座 教授 中島 芳樹 先生 「周術期医療と手術室」	1月24日(火)
第24回	2月22日(水) 19時30分～20時30分	 地域周産期医療学講座 特任教授 飯嶋 重雄 先生 「浜松医科大学医学部附属病院における 新生児医療のあゆみと今後の展望」	2月21日(火)
第25回	3月22日(水) 19時30分～20時30分	 光学医療診療部 部長 大澤 恵 先生 (演題未定)	3月21日(火)

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/cent-clin-fac/med-welfare-sprt-ctr/reg-med-liaison/web.html>



お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849 （平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

よくわかる！ 浜松医科大学医学部附属病院 最新医療のいまを出版しました。

本院が提供している最新医療について、分かりやすい言葉で解説しています。

書籍の構成

- 特別企画
「五郎丸 歩 静岡ブルーレヴズCRO×松山 幸弘 病院長」対談
- よくある疾患の最新治療
- 女性への医療
- 小児への医療
- がんとフレイル
- 高度施設と最新の技術 など

販売場所

院内コンビニエンスストア、静岡県内及び愛知県東部の主要書店、
インターネット販売



外来診療日一覧

2022.12.1現在

受付時間	午前 8 時 30 分～ 11 時	一般外来・専門外来	○：午前 ◆：予約のみ
	午後 0 時 30 分～ 2 時	専門外来	
休 診 日	土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日		

診療科名		診療日										備考	
		初診					再診						
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
内科		受付電話 435-2632											
内 科	一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ	
	脳神経内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	水曜日：午前のみ	
	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆		
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆		
	肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		
	循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ	
	血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ	
	免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆		
	臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ	
	専門外来	炎症性腸疾患外来	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
		家族性消化器腫瘍外来				◆					◆		
		脳神経病態外来	◆					◆					
感染症専門外来				◆					◆			午後のみ	
禁煙外来		◆					◆					※2021.7～休診	
ペースメーカー外来												予約のみ 要問い合わせ	
ピロリ菌外来		◆										午後のみ	
合併症外来									◆				
精神科神経科		受付電話 435-2635											
専門外来	初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		
	摂食障害専門外来 デイケア						◆			◆		※2020.4.28～休診	
小 児 科		受付電話 435-2638											
小 児 科	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	内分泌・遺伝		◆					◆					
	内分泌		◆					◆					
	心臓				◆	◆				◆	◆		
	血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で	
	免疫・アレルギー	◆			◆	◆				◆	◆		
	神経	◆	◆		◆		◆	◆		◆			
	腎臓	◆			◆		◆			◆			
	新生児フォローアップ						◆	◆			◆		
	乳児検診	◆					◆						
	CCS外来									◆		第4週のみ	
	特殊予防接種										◆		
小 児 外 科		受付電話 435-2638											
専門外来	初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆			
外 科		受付電話 435-2641・2642											
外 科	心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆		
	呼吸器外科			◆					◆		◆		
	乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆				◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)	
	一般外科	○		○		○	○		○		○		
	上部消化管外科		◆	◆					◆	◆			
	下部消化管外科	◆					◆			◆			
	肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆		
	血管外科		◆		◆			◆				木曜日：下肢静脈瘤、リンパ浮腫	
	専門外来	肥満減量外来	◆	◆			◆				◆		
	緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
脳神経外科		受付電話 435-2644											
専門外来	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆		
整 形 外 科		受付電話 435-2647											
専門外来	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆		
	教授外来（脊椎）	◆			◆		◆			◆			
	骨粗鬆症				◆					◆			
	リウマチ			◆	◆				◆	◆			
	手・末梢神経			◆					◆				
	脊椎	◆					◆						
	腫瘍			◆					◆				
	股関節					◆					◆		
	肩関節					◆					◆		
	膝関節・スポーツ					◆					◆		
	小児整形	◆					◆						
	ヘルニア							◆					

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	アトピー外来			◆					◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
	腎移植外来				◆					◆	医師交代制	
	排尿障害外来		◆	◆				◆	◆			
	不妊症外来		◆		◆			◆		◆	火曜日：第1、3、4、5週のみ	
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656												
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ	
	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来									◆	第2週のみ（月により変更あり）	
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
専門外来	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	腫瘍外来	◆			◆		◆					
	耳外来				◆					◆		
	耳鳴外来		◆					◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
	顔面神経外来		◆		◆			◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
専門外来	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	第1、2、4週のみ 予約制 要問い合わせ （午後に産科婦人科へ）	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	NIPT外来							◆				
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆					◆		
	母親学級											
	助産師外来											
乳腺予防ケア外来												
ART室 受付電話 435-2664												
不妊外来								◆	◆		◆	◆
放射線科 受付電話 435-2665												
放射線治療科 放射線治療外来		◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆		
放射線診断科 IVR外来			◆					◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
初診・再診		◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆		
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
専門外来	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ	
	義肢・装具外来				◆				◆		午後のみ	
	嚥下外来	◆			◆			◆				
	痙攣外来		◆					◆		◆		
高次脳外来		◆			◆			◆		◆		
形成外科 受付電話 435-2496												
初診・再診		○	○	○	○		○	○	○	○	木曜日：リンパ浮腫	
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
専門外来	初診・再診	◆	◆		◆		◆	◆	◆	◆		
	唇顎口蓋裂外来				◆				◆		専門外来の診察日は不定期のため、 歯科口腔外科外来受付 電話にお問い合わせください	
	顎補綴				◆				◆			
	矯正歯科					◆				◆		

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。